

熊本県立大学
国 文 研 究

第 四 十 九 号
平 成 十 六 年 三 月

目 次

- 〈庭尔落〉考 山 崎 健 司 …… 1
—「落」の語の表現性をとおして—
- 高田政度の節用集をめぐって 米 谷 隆 史 …… 19
- 「東京は神田の生まれです」の構造 福 間 真由美 …… 33
- 初級からの待遇表現教育 高 沢 美 和 …… 70(25)
- 現代日本語の使役文と受動文の下位分類での統一性について
田 峻 哲 …… 87(8)
- 熊本県立大学文学部日本語教育課程について
馬 場 良 二 …… 94(1)
- ・受贈雑誌一覧 …… 46

熊本県立大学日本語日本文学会


 国文研究
 

目次

○ 〈庭尔落〉考 ——「落」の語の表現性をとおして——	……………	山崎健司 ……	1
○ 高田政度の節用集をめぐって	……………	米谷隆史 ……	19
○ 「東京は神田の生まれです」の構造	……………	福間真由美 ……	33
○ 初級からの待遇表現教育	……………	高沢美和 ……	70 (25)
○ 現代日本語の使役文と受動文の低位分類での統一性について	……………	田峻哲 ……	87 (8)
○ 熊本県立大学文学部日本語教育課程について	……………	馬場良二 ……	94 (1)

受贈雑誌一覧

編
集
後
記

はやいもので、来年度刊行の号をもって本誌も五十号を迎えます。当然ながら、本誌創刊のころを知る教員は現職にはおりません。しかし、五十年にわたりこのような雑誌を維持していくことが容易なことでないことは、いまの我々にもおのずと察せられます。次号は記念号として、この五十年を回顧しながらも、後ろを振り返るだけでなく国文学（日本文学）、国語学（日本語学）、日本語教育学の未来を照らすよう、編集に工夫を凝らしてみたいと考えております。

学部・学科に対し「旧態依然」という批判の声の強い昨今ですが、学問の現場は、ながらく同じ位置に佇んだままでいられるほど、のどかな世界ではありません。時代の中で研究の深度は確実に増し、扱う対象領域も格段に広がってきています。ただし、最新の動向を見据えながら、問題を曖昧化させない態度、これだけは不変のものとしてあってよいはず。学問的良心を捨てることなく、時代を乗り越えていきたいと念じるばかりです。

「国文研究」 第四十九号

印刷 平成十六年三月三十一日

発行 平成十六年三月三十一日

編集・発行

熊本県立大学日本語日本文学会

熊本市月出三丁目一番一〇〇号

印刷 衞さかき印刷

☎三八〇一六五四一